



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「かける話」

「今日先生にかけられた！」

このことばにピン！と来た人は新潟人！？そうです、「かける」は新潟では当たり前に使われている「教育現場用語」です。

「この問題かけますよ」と先生、「あきゃ、居眠りしていたら、先生にかけられた！」と生徒、というように主に先生が生徒に指名する際、県内では、ごく自然に老若男女問わず使用しているため共通語と思われていますが、これは立派な新潟の方言です。

かくいう私も大学入学までは共通語だと思っておりました。正直言って、以前はあまり新潟弁が好きでなかった私は、東京の大学の寮では、「私方言なんて話せません。おほほほほ…」という態度を貫き通すつもりでいました。ですが、いっぺんに新潟人とバレたことば、それが「かける」でした。

私「あすのドイツ語の先生かけるかしら？」先輩A「かける？あの先生もうお歳だから駆けられないでしょ？」私「?????」。

たまたま居合わせた国文学科の先輩Bの「かけるは、新潟と山形の一部で使われている方言なのよ」との発言で、指名することを共通語では「あてる」か「さす」と表現することを知り、びっくりしつつも、当てるだの、刺す（本当は指す）だの、物騒な言い方だなあ、と秘かに思いました。語感から、「当てられるのは痛いし、刺されるのは絶対に嫌！かけられるのは耳に優しいからまあ許す…」と勝手に思い、それまで、何となく親しみを覚えなかった新潟弁が、少し身近に思えてきたのも事実でした。

一口に新潟弁といっても広い県内は、地域差が大

きくて全域で共通する方言は数少ないのですが、この「かける」なら県内どこでも通用するようです。ですから、方言とは知らずに使われている「気付かない方言」のひとつで、筆者のように、県外に出て初めて方言と分かってびっくりする人も多いようです。

試しに、私に関わる学生たちに聞いたところ、やはり県内勢は全員「かける」派、県外勢は「あてる」派が多く、「さす」派は関東勢にみられました。かけるは「声を掛ける」からきているとも思われますが、突然指名される学生にとっては、平常点も成績に評価されることもあり、まさに勝負を賭ける位のつもりで答える必要があります。古くは、弓矢を放つことを「掛ける」と表現したと言いますから、共通語の「当てる」にも匹敵した意気込みが感じられてきます。

さて「かける」も、「駆ける」となると走る意味となりますが、県内では、「駆ける」よりも、「走る」もしくは「飛ぶ」と表現すると通りが良いようです。下越の一部と上越から長岡にかけて、「飛ぶ（跳ぶ）」が見られるため、体育の授業で「速く飛べ！」と言われた県外からの転校生が、びよんびよん跳躍するのかと思ったという話があります。民話で「駆けくらべ」が関東なら、越後の民話は「飛びくらべ」というように、まさに所変わればことばも変わるといえましよう。

「先生がかけて、生徒は飛んで」活きのよい新潟の方言の一例です。

